

中心部震災メモリアル拠点検討委員会報告書素案（概要版）

1 はじめに

(1) 東日本大震災の概要

- ① 地震の概要 / ② 被害の概要

(2) 東日本大震災の経験が持つ意味

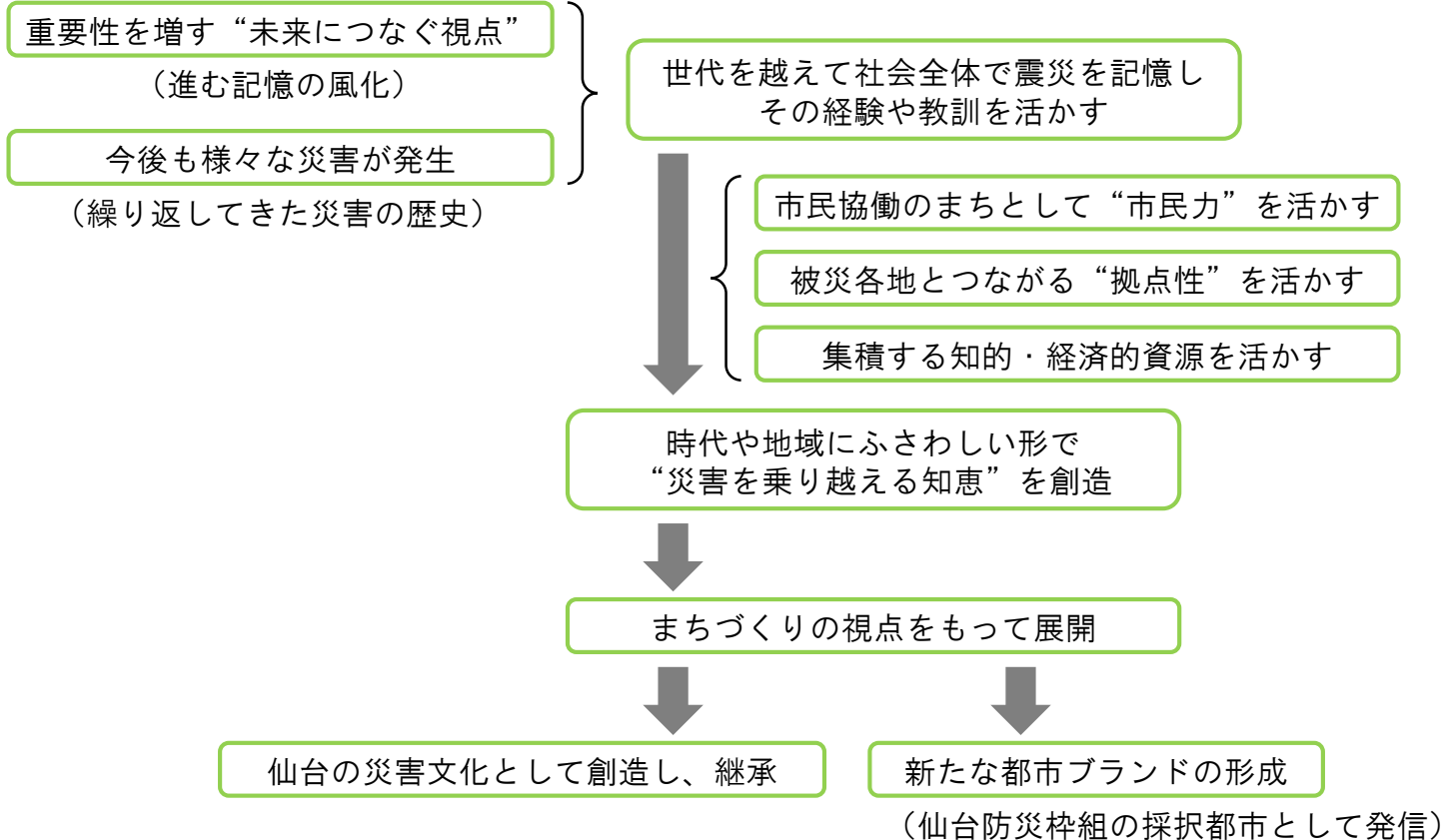
- ・ 世界史的規模の災害における被災経験の多様性
（被災の様相やそこから感じ取ることが個人で多様であること）
- ・ 人間社会のあり方を問われるほどの経験
（個人と公共のあり方、エネルギーや情報の途絶等社会システムの脆弱性など文明史的な課題をはらむこと）
- ・ 記憶や経験を伝えることの重要性和困難さを認識させられた経験

2 本拠点のあり方

(1) 本市震災復興メモリアル事業における位置付け

（本市震災復興メモリアル事業における中心部震災メモリアル拠点の位置付け）

(2) 本拠点の基本的な理念— “災害とともに生きる文化の創造”



3 本拠点の機能

記録や発信、事業運営、コーディネート、地域での調査・展開等の担い手を有する記憶の拠り所を、市民が日常的に行き交う場所に設ける

- ⇒ ・ 世代を越えた“市民共有の記憶”を形成
・ 人々が交流・活動する中で“災害を乗り越える知恵”を創造

(1) 記憶の拠り所として想像と創造を喚起する“記憶の樹”としての機能

- ① 震災の記憶を保ち、想像や創造の土台となる“**記憶の根**”（アーカイブ及び展示的機能）
- ② 震災の記憶を日常の中で表し続ける“**記憶の幹**”（震災全体の記憶を表象する機能）
- ③ 災害を乗り越える知恵の創造を喚起する“**記憶の枝**”（未来に向けた交流・創造の機能）

(2) 日常の交流・賑わいの中で震災の記憶に触れる機能

“記憶の樹”を囲む広場的機能。日常の交流・賑わいを通じて、震災という出来事を継承

4 立地の基本的要件

- ① 都市のアイデンティティを象徴的に示す場所（“災害とともに生きる文化の創造”を目指す決意）
- ② 多くの人が行き交い、交流できる場所（市民の日常の中に溶け込む）
- ③ 他とのつながりを作る場所であること（被災各地への移動等を容易に）

5 今後の検討課題

- ・ 機能や具体的な活動に関する詳細
- ・ 他施設との具体的な機能分担や連携
- ・ 本拠点の形態や規模に関する詳細
- ・ 本報告の趣旨を実現するための効果的な手法等

6 参考資料

- ・ 震災復興メモリアルに関する取組み状況
- ・ 検討経過